

同窓会報

南秀

編集 一般社団法人
南秀同窓会
安谷屋政秀
発行人 花 View 出版
制作 Tel 74-3881

宮高24期と定時制16期の
卒業50年を祝う

一般社団法人 南秀同窓会

会長 安谷屋 政秀 (25期)

同窓会会員並びに関係者

げます。

の皆様におかれましては、ご健勝で日々ご活躍のこととお喜び申し上げます。この度、與儀千壽子前会長のあとを受け、南秀同窓会会長を拝命いたしました安谷屋政秀(25期)と申します。責務の重さに身の引き締まる思いをいたしております。微力ではございますが、南秀同窓会の充実発展に向けて誠心誠意努力して参る所存でございます。皆様のご支援ご鞭撻をお願い申し上げます。

さて、新型コロナウイルス感染症の拡大により、本同窓会の主幹事業である「卒業50周年を祝う会」が2年連続(全日制22期、定時制14期、全日制23期、定時制15期)中止を余儀なくされ、内外活動も停滞状態が続いておりますが、この度、24期・定時制16期の同窓生の「卒業50周年を祝う会」を開催することとなりました。

この祝う会は、昭和58年に宮中一期卒の皆様が、卒業50年の記念に母校宮古高校へ多額のご寄付をなされ、そのお礼に「感謝と歓迎の夕べ」を開催したことが始まりで、その後、南秀同窓会設立、給付型育英奨学金事業へと発展してまいりました。年代を超えたタテ・ヨコの繋がりによって本同窓会の活動が支えられてきました。本年度は30期の下地善久氏より高額な寄付金

は本土復帰の年にあたり、琉球民政府立宮古高等学校として最後の卒業生になります。正に沖

を賜りました。この場をお借りして深くお礼申し上げます。

母校の発展と在学生の文武での活躍を支援することが本同窓会の趣旨であり、卒業生の誉れであると思えます。校歌に「学びの泉むすびつつ持久の駒にむち打ちて、星雲慕う行く手こそ、健児の胸をそそるかな」という一節があります。母校の卒業生たちは、社会の荒波の中自身にむち打ち宮古高等学校卒業生であること

健児で在る在校生の導(しるべ)となるよう、宮中一期卒の先輩方の心意気を受け継ぎ頑張っていこうではありませんか。

最後になりましたが、会員の皆様から寄せられるご支援ご協力に感謝申し上げます、併せて本日の祝う会開催にご尽力いただきました皆様へお礼申し上げます、母校宮古高等学校の発展と校長先生を始め職員各位のご健勝と在校生の益々の活躍を祈念申し上げます、私のあいさつといたします。



現在の宮古高校 校門



旧校門

「卒業50年を祝う会」の 開催に当たり

沖縄南秀同窓会 会長

豊見山 恵美子 (21期)

爽やかな秋の季節を迎えております。

宮古高校24期卒・定時制16期卒の皆様(令和4年度)第35回「卒業50年を祝う会」開催、誠にありがとうございます。卒業50年の大きな節目に一堂に会するという伝統ある感動的な行事を企画されてこられた南秀同窓会並びに宮古高校、実行委員の皆様には厚くお礼申し上げます。

新型コロナウイルスの未曾有の感染拡大で令和2年度、3年度は中止を余儀なくされました。今年度は開催の運びとなりましたので「ご案内」が届き、嬉しく

思います。

1972(昭和47)年3月に宮古高校を卒業、琉球政府立最後の卒業生です。5月には本土復帰し沖縄県になりました。正に大きな節目の年に卒業し50年が経りました。

きょうのこの日は、日ごろ付き合っている仲間とはとより、卒業以来お会いしていないアゲ・トゥンガラ(同期生)と交流し、心ゆくまで語り、交流しましょう。

懐かしい高校生活を共に過ごした宮古の地で集うことで、青春時代の思い出は尽きることなく、新たな絆を創る大切な機会ともな

ります。

会場には恩師や先輩方、後輩の皆さんも参加しています。先輩方が、母校宮古高校に対する熱い思い、縦と横の絆を大事にすることで立ち上げ、大切に守ってきた「この祝う会」をきっかけにさらに「つながる」ことで、南秀同窓会は輝きを増していくでしょう。

宮古高校は有数の進学校として県外の大学等に進むのも多くなり、復帰後は県内の大学にも他県の学生も増えてきました。「その頃は、学生運動の盛んな時期でもあり、夜遅くまでこれからの時代の教育について、お互いの持論を熱く語り合ったのも懐かしい限りです」と24期・浦崎直子さんは沖縄南秀同窓会会報31号(7月)に原稿を寄せています。

あれから50年、様変わりし、都市化した宮古島の現況。大きなビルが増えました。新しい道路に戸惑うことも多くあります。来間島、池間島、伊良部島とすべてに橋が架かり、コバルト

ブルーの海を求め、世界各地から観光客が訪れるようになりました。

しかし、令和2年年明け早々、中国で発生した新型コロナウイルス感染症が世界中に拡散し、現在、コロナ禍による国民生活の不安と不自由な世情の中にいます。

だからこそ、より良い方

向にお互いの暮らしが進むよう工夫をしていきましよう。卒業50年の祝いを機に、これからも同期生相互の交流と親睦を深めるとともに、南秀同窓会活動にも積極的に参画されますようお願い申し上げます。

結びに、皆様の益々のご健勝とご活躍を祈念してあいさつと致します。



現在の宮古高校

卒後50年を祝う

関東南秀同窓会 会長

川上 正人 (23期)

八月の猛暑日、九月の度重なる台風襲来は過ぎ去り、寒露の節気となりました。天高く、朝晩の冷え込みがつよくなり、日毎に秋の深まりを肌身に感じます。宮古諸島では、夕暮れ時のさわやかな北風(ニスカジ)に乗ってサシバたちが飛来する様子が脳裏に浮かびます。ダイナミックで深遠ないのちのリズムを運ぶサシバの渡りは、かけがえのない島の風物詩です。50年前には天空を覆いつくすように旋回したサシバの群れが絶滅危惧種Ⅱ類に指定された事を仄聞し、島の環境汚染を危惧しております。

一般社団法人「南秀同窓

会」におかれましては令和4年度に就任された安谷屋政秀・新会長(高25期)を中心に役員一丸となつて同窓会活動をいつそう盛り上げ、母校の発展に貢献しております。心強い限りです。今年は、コロナ禍の影響で2020年度から中断されていた「卒後50年を祝う会」が開催されます。三年ぶりの待望の記念式典の再開はまことに喜ばしく、心からお祝い申し上げます。

「光陰矢の如し」、50年の月日は長いようで短い！しかし、世代が二回り変わるほどの重みがあります。あの時、あの頃の夢はかなえられたでしょうか。満願かなわずとも各自の願いや思いは花開き、二つとない立派な実を結んだことと拝察します。「その実をみてその木を知る」、と申します。久しぶりに再会する学友と思ひ出話に花が咲き、懐かしくも楽しいひと時を過ごすことでしょう。

今年(2022年)は日本復帰50周年の節目の年になります。東京では関東沖縄同窓協議会や東京沖縄県人会、等の主催で数々の記念式典が開かれています。また、NHK朝ドラの「ちむどん」の影響もあってか、沖縄関連の行事が増えています。

関東同窓会では、会誌「絆」の年2回の発行を継続しています。11月6日(日)には3年ぶりの「懇親会」を開催します。コロナ感染は、当分はくすぶりながら収束すると思います。感染予防策を講じながら同窓会活動を再開する所存です。

結びになりますが、「南秀同窓会」および母校の益々のご発展とご活躍を祈念し、あいさついたします。

現在の宮古高校



卒業50周年を祝う



宮古高等学校 校長

金城 透

卒業50周年を迎えられました宮古高校24期生・定時制16期生の皆さま、本日は誠にめでとうございませす。「卒業50周年を祝う会」も、コロナ禍で2年連続で中止を余儀なくされましたが、今回開催の運びとなったことに、全日制24期生・定時制16期生はもちろん、事務局の皆さまも感慨ひとしおといったところかと思ひます。

宮古南秀同窓会の皆さまには、日頃から母校への支援をはじめ卒業生への学業補助奨学金給付等、日頃から大変お世話になっており

ます。また同様に沖縄南秀同窓会や関東南秀同窓会の皆さま方にも、本校教育に対して格別なご協力・ご支援を賜り、心より感謝申し上げます。そして、この度、卒業50周年を迎える皆さま方からは、多大なご寄付をいただきました。今後も生徒の学習や部活動等に活用させていただきます。改めてこの場をお借りしましてお礼を申し上げます。

本校の沿革を開いてみますと、皆さんが在籍していた昭和44年(1969)には、創立40周年記念式典並

びに体育館落成祝賀会が盛大に行われたこと、定時制課程では、全国定時制珠算競技大会に県代表として派遣され、優秀な成績を収めたことが記載されています。私事ではありますが、昭和45年(1970)の職員名簿の新規採用者の中に、国語科の本村清先生、社会科の新垣明光先生、そして、数学の先生で本校第22代の狩俣幸夫校長(平成15(17年度)の各校長方のお名前を見つけ、大変懐かしく、うれしく思いました。他にも多くの先生方が教壇に立っています。

また、毎年、1月下旬に文化祭が開催されていることにびっくりしました。スポーツや文化面、各種大会での多くの活躍、そして、昭和47年(1972)の3月、全日制24期生、普通科323名、商業科48名、家政科96名の計467名。定時制16期生、商業科 男子26名・女子57名の計83名の皆さまが、本校を卒業されました。昭和47年は米軍統治であった琉球政府から日

本への復帰となった年であり、復帰直前3月の政府立宮古高等学校、最後の卒業生となっております。その後、現在まで県内外の各界において多くの先輩方が活躍しており、在校生に取っても大変誇りと自信に繋がっております。

ご存じの通り平成30年(2019)に本校は創立90周年を迎えました。宮古地区の拠点校であり、歴史ある伝統校として、在校生は先輩方の意志を引き継ぎ、これまで以上に信頼される学校づくり、地域社会への貢献に全力を尽くす決意を新たにしています。

昨今、コロナ禍で在校生は様々な影響を受けてはおりますが、校内は活気に満ちあふれており、生徒一人ひとりが勉学や部活動に勤しみ、上級学校への進学や部活動、各種コンクールで輝かしい実績をおさめるなど、日々の教育活動に意欲的に取り組んでいます。諸先輩方、是非、本校へ足を運んで頂き、頑張っている生徒への激励をお願い致します。

結びになりますが、宮高24期生・定時制16期生の皆さまにおかれましては、「卒業50周年を祝う会」以降も、親睦がますます深まることを願っております。また、すべての皆さまがお元気で、それぞれの地域で活躍されますことを祈念いたします。これからも本校の発展のために、同窓会・先輩方のご指導とご支援を賜りますようお願い申し上げます。



昭和40年当時の宮古高校の学校風景

良い学校づくり目指す

宮古高校 生徒会長

根間 蒼葉 (76期)

南秀同窓会の皆様、こんにちは。

私は、宮古高校、生徒会長の根間蒼葉と申します。

私たち宮古高校生は、皆様が築き上げた伝統を守り、更に良い宮古高校を創り上げるべく、日々向上心を持って頑張っています。

そして、今年度は校則検討委員会への参加と、生徒会の企画運営、行事の充実に力を入れて活動しています。近年、日本は「ブラックス校則」と呼ばれる、過度な校則が物議を醸す、といった現状があります。そこで、私たち生徒会役員が中心となり、全生徒が不自由なく過ごせるよう生徒・先生方とのコミュニケーションをとりながらより良い学校づくりに取り組んでいます。

また、新型コロナウイルスの影響で思うように学校行事を行えなかった昨年度を思い出し、全校生徒で行事ができる喜びを噛み締めながら、今年度の学園祭・後夜祭は全力で楽しむことができました。更に、学園祭を行う中で、出し物の人氣トップ3を選出するなど、久々に開催することのできる大きな行事を限りなく楽しむことができました。そうすることで、宮高生全体が一丸となつて、行事を盛り上げることができました。

私は、生徒会長になってまだ4ヶ月ですが、宮古高校生代表として皆様にこうして挨拶をすることができていることを、心から嬉しく思っています。また、今

の宮古高校での活動は、先輩方のご努力無しでは成せていない、残りの高校生活を有意義なものにしようと、

この機会をいただいてこそ再確認することが出来ます。これからの高校生活も、全力で学び、全力で楽しんで

でいこうと思います。先輩方、これからもご支援をよろしく願います。

奨学生

地元還元の意志固く

琉球大学理学部数理科学科四年次

伊志嶺 元隆 (71期)

琉球大学理学部数理科学科の伊志嶺元隆です。この度は、南秀同窓会奨学生に採用していただき、誠にありがとうございます。昨年度に引き続き、今年もご支援いただける事を大変嬉しく思います。

私は、これまでの大学生活において数学を専門的に学ぶと共に、副専攻として教職への学びを深め、先日出身校である北中学校にて教育実習をさせていただきました。実習における授業では、生徒たちに数学を楽しみつつ理解してもらう難しさを改めて感じ、毎日の失敗と反省に自信を無くす

ことも少なくありませんでしたが、そんな時に、島の先輩でもある先生方や、生徒たちに何度も救われ乗り越える事が出来たと感じています。特に生徒たちにおいては、新型コロナウイルスの影響で給食時の黙食等、未だ多くの制限がある中で、勉強や部活動など私の中学時代以上に、努力する姿を見せてくれると同時に、私の不甲斐ない授業にも一生懸命ついてきてくれました。私は、生徒達に多くの刺激を受け「これまで自分が宮古島で受けて来た恩を、将来は島で育つ子ども達に送っていききたい」と身にし

みて感じました。

また、実習期間中、保護者の方や多くの先生方に「二度、企業での社会経験を積んだ後、教員として戻ってきなさい」という助言を頂きました。その実現のため、私は現在ゼミにおいて、確率・統計学を専攻しており特に経済動向についてのデータ処理を学習し、卒業後はその知識を基に証券会社に就職する予定です。そして私自身が、金融に関する知識を深めた上で、教員として宮古島に戻り、数学と関連して、金融リテラシーや今後学校現場で始まる資産運用に関する教育を宮古島の生徒達に行っていくたいと考えています。

最後に、皆様からのご支援に改めて感謝し、この恩を地元還元する意志を強く持ち、これからも自分を磨いていきたいと思っています。

奨学生

ご支援に感謝

沖縄国際大学法学部二年

仲間 愛聖 (73期)

沖縄国際大学法学部の仲間愛聖と申します。このたびは、奨学金のご支援をいただけることになりました。心より感謝いたしております。

大学では、幼い頃から抱いてきた地元貢献できる公務員という目標を達せすべく日々法律や地方自治の勉強に励んでいます。

行政法や行政実務論、刑法総論など大学の講義で学ぶことのできる専門的な分野の学習にも積極的に取り組んでおります。また、一年次はリポート授業がほとんどだったためあまり出来なかった他学生とのコミュニケーションなども少しずつ増えてきており、充実した学校生活を送れています。こうして学びたいと思う勉学に勤



現在の宮古高校

しむことができるのは両親の経済的援助と奨学金制度のおかげに他なりません。このご支援に恥じぬよう、残りの学校生活を真面目に丁寧に送ってまいりたいと考えております。このたびのご支援、本当にありがとうございます。再度感謝を申し上げます。

奨学生

実業家が目標

琉球大学国際地域創造学部

羽地 翔 (74期)

9月に入っても厳しい暑さが続いておりますが、いかがお過ごしでしょうか。

この度は、奨学金のご支援をいただきまして、誠にありがとうございます。

私は、社会に自らの力で価値を生み出せるような人材になり、最終的には実業家になることを目標としています。そのため、昨年度までは、大学内にては、経済学の講義のみでなく、経営学の講義も積極的に受講し、経営、経済の両面での学びを通して、実社会への理解を深めていきました。経営学の中の一つの講義では、実際に実業家である人の指導の下で、ビジネスプランの構築に試みるなど、刺激溢れる体験をすることができました。また、実際に社会で必要とされて

いるスキルや知識を、学生のうちに学ぶことで、大学内での学びがより一層意味のあるものになると考えたため、大学外では、それらのスキルや知識を、資格取得を通して学習しました。結果として、日商簿記2級、MOSExcel365&2019、基本情報技術試験の合格を達成し、それに伴って、企業活動に関する理解の深化や、実際にエクセルを用いた文責をする際の技術獲得、今後の社会にて最低限必要とされるであろうITに関する知識を養うことができました。

今年度の4月からは、「公共部門が抱える問題の解明」をテーマとするゼミに所属しており、十六名の同期と共に、頼れる先輩方、尊敬する教授の下で、更なる成長させていただいております。当ゼミにて私は、過疎地域活性化のための政策立案をテーマとする研究を行い、先日の9月8日には、4大学連携の合同ゼミにて研究内容の発表を行って参りました。この研究を通して、ありがたいことに、教授からの直接の推薦をいただき、オリオンビル株式会社へのゼミ生代表としての派遣が、翌月の10月から決定しました。また、新たな研究もゼミ内にて同じタイミングで開始するため、今までより一層忙しくさせていただくことになりました。

そのような中で、温かいご支援をいただけますことは、アルバイトなどに時間を割く心配なく、勉学や、自身の成長のために専念できることにつながるため、ありがたい限りです。

このご支援に恥じぬよう、さらたなる成長を続け、自身の目標を達成し、将来宮古島に還元していきたいと強く思います。

思い出しの記

卒業50年を祝う会あいさつ



友利 恵徳 (24期)

本日は、第三十五回卒業五十年を祝う会の開催を迎える事に、安堵と嬉しさが込み上げてきます。金城校長をはじめ、南秀同窓会会長安谷屋様、役員、恩師の先生方、南秀会先輩、後輩の皆様、御臨席下さりありがとうございます。

記念すべき良き日、これ偏に、皆様の御支援、御協力の賜物であり、深く感謝の念に堪えません。同時に宮古高校の伝統基礎を築いてこられた、諸先輩方、PTAの皆様にも御礼申し上げます。

二十四期、同期の皆様、島内外から生まり島へ、ようこそ、んみゃーち、出席タンディガータンディ。ステイ

ガフー。さて、恩師の皆様方、日本復帰前激動する社会、教材も品薄であったと思います。私達を三年間、時に叱咤激励し、温かく導きいただきました。先生方は私達の誇りであります。同期生の皆様、先生方に感謝を拍手で送りたいと思います。：ありがとう。

同期生の皆様、想い起こせば沢山あります。例えば高校生活の昼食の品は、菓子パンとミスターコーラ。また、家からの弁当はおかず二

三種類入っていれば、心ばかり満足だったと思います。更に、放課後は体育、文化面各大会に向けて、各部で日々練習を積み重ねて過ごしました。お陰で、お互いを信頼する心を養い、喜怒哀楽して来ました。本日は、久しぶりに級友と出合いを喜び、語り合い、感動の花を

咲かせて盛り上げて下さい。寄付金をして下さった同期生もありがとうございました。ところで、本日都合で参加出来なかった同期の皆様も、コロナ禍により、社会経済環境が一変しました。終息が見えない中、変化に順応して日々生活する糧が、私達には求められています。卒業五十年の坂道を乗り越え、人生百年時代に入ります。

これからも山あり、谷ありあります。時により峠道でお互いの心と力を合わせて楽しく生きましよう。

折りにふれ、語り合い、アグの絆を更に深め、アララガマ精神で、笑いもあり喜びを分かち合い、日々過ごして行きたい事です。

会場の皆様、アグ達、本日は不行き届かない点もあると思います。三ヶ月余りの短い期間での準備等の為、御理解と御容赦の程お願いいたします。南秀会事務局、アグの実行委員の皆様、ご苦勞様です。感謝いたします。

六年後、二〇二八年、宮古高校は創立百周年を迎え

ます。母校の更なる御発展を祈願いたします。

結びに、本日御臨席の皆様、二十四期、十六期の私達に今後共、御指導、御鞭

撻を賜りますよう何卒宜しくお願い申し上げます。皆様とアグ達のガンジューサー番と御多幸を記念申し上げます。

あれから50年

宮國 英子(旧姓・大見謝)

(定時制16期)



1968年4月、琉球政府立宮古高校定時制に入学し、夕やみせまる校門をくぐると、夜来香の強烈な香りが漂う中、古ぼけた木造校舎の教室に入っていく。

「古い校舎に、夕暮れが今日も包んで夜が来る、僕らは定時高校生——」最初に覚えたのが、舟木一夫さんのこの曲、先輩達から受け継がれていました。

全日制では高校三年生でしたが、私達にはこの曲と

高校四年生でした。昼間は、それぞれの職場で働き、疲れも何のその一時間目が終わると楽しみの給食時間、カレー、炊き込みご飯、宮古そば、パンと献立もいろいろで、皆の昼間の出来事を語りながら食べました。

二時間目が始まると、お腹も一杯になりウトウト居眠りする日もしばしばありました(笑)

私事です。が失敗談。期末テストで一番怖い(?)と言われたS先生の監督のとき、うっかり居眠りをして目覚めた時、その先生の顔が目の前に——。「後

で職員室に來なさい」と言われ恐る恐る職員室に向かいました、その後はご想像におまかせします(笑)

授業が終ると、それぞれ運動部、文化部で活動し帰りはいつも遅く、地方の友達、あの頃映画バスといつて最終が11時頃のバスで帰っていききました。

四高校陸上競技大会では、定時制初の女子応援団(今ではチアガール)を結成し、自分達でデザインし縫製した衣装で、大声上げたり、ダンス等で応援もしました。懐かしい思い出の一つです。

1972年3月卒業し沖縄本島の大学二部(夜間)に進学し昼間は事務機器関係の会社に勤め、この年本土復帰の節目にあつて4月給料はドルで、5月の給料は円で、見たこの聖徳太子のお札でした、ドルから円に変わったのです。

しかし本島の大学、仕事をやめ宮古島に戻り、県職員事務職に受かり、職種は変わりましたが、昭和48年6月宮古水産高校の理科助

手として採用され地元の高校でそれぞれ勤務し総合実業高校で定年を迎えました。

激動する社会情勢の中で多くの先生方に出会い、友達に出会えた事が今の自分があると思ひしく思い出します。

残念なことですが、少子化の影響、時代の変遷の中で平成17年3月、49期卒で定時制課程は52年間の歴史を終えました。定時高校生として学んだことが走馬灯の様にあれこれ浮かび寂しさを感じました。

ここ三年のコロナ禍で不自由な仕組みになって、去年、一昨年とこの会も中止になりましたが、一日も早く終息する事を願いつつ、今回開催される事に感謝して乾杯。



私の高校時代

砂川 吉章 (24期)

「卒業五十年を祝う会」が三年ぶりに開催されますこと、本当におめでとうございます。

開催に尽力してくださった皆様に感謝いたします。

さて、コロナに振り回された三カ年、不要不急の外出を控え、すっかりテレビ漬けの日々を過ごすようになった。

NHKの「映像の世紀」を観て思う事の一つに、私たちの高校時代が動く映像として残されていれば、どんなに楽しかろうということである。それは叶わない事として自分の記憶を遡ってみたい。

その頃は、テレビの同時放送や携帯電話もパソコンも無かった。情報がリアルタイムで得られる訳ではなく、私自身が目標とか夢とは無縁な日常だった。義務教育の延長でなんとなく進

学したようなものだ。それは三無主義とか四無主義とか言われ始めた時期でもある。

入学して校門からすぐのところ私たちの一年八組の教室はあった。宮古島の全域から生徒が入学するので新鮮な出会いであった。担任の川根先生の授業は小中学校とは打って変わり、黒板の左から右にひたすら板書する。右の黒板の下端まで来ると左側の板書をさっさと消し始める。ノートに写すのが遅い人は「あーっ」と悲鳴を上げる。先生はかまわず書き続ける。そして休み時間の鐘が鳴るやピタッとチョークを持つ手が止まるのである。試験問題もユニークで、問題が二問、論文形式で答えねばならない。単純に考えて零点か五十点か百点かの三通りしかない。答案を

返すとき先生は仰った。「あまりにも酷いので、皆さん個人が何点欲しいか言いなさい」一人一人に訊いていたが、さすがに百点が欲しいという剛の者はいなかったと思う。

これはもしかして大学の授業に近いものではないか? 大学を知らないのにそんなことを思ったりした。

弁当の時間には先輩方が校舎裏の芝生でフォークソングを歌い、中学校では経験したことのない自由な雰囲気味わえた。一方、応援団の団長に応援の練習をサボったとかでケツバットを食らったりもした。

二年生に進級するとき改革があった。それまでは二年生進級にあたり「文科」「文理」「理科」の三学科に分かれていたと思うが、私たちは文理のみになったのだ。そのせいなのかは知らないが、ある先生から宮古高校始まって以来の学力の低い学年だと揶揄されたりしたものだ。しかし私は学科という垣根がなくなり連帯感のある学年だったと思う。

この年、担任の急逝に遭遇するという悲しい出来事もあった。今改めて先生の好きだった「すずかけの径」を聴いてみると、歌詞そのものの雰囲気、知的で優しく、先生の面影が胸の痛

みとともに蘇る。

三年生になって、傷心を癒やしてくれたのは担任の英語教師与那城先生である。先生はジョーク大好きで私たちとの掛け合いは楽しく、「Satidy」を「サーティ

ファイ」「さーていふお一つか満足」と教えて下さった。今も私の中で忘れられない授業のワンシーンである。わずか三年の高校生活において、早くに夢を見つけた人は勉学に打

ち込んでいた。部活に意義を見いだした人もいた。学生運動の波は小さな島にも伝わり、世の中の不条理に抗議の声を上げる仲間もいた。そこには様々な青春があり、人生のターニング

ポイントとなったことを実感している。卒業五十年目で再会する学友一人一人が、思い出を持ち寄り語り合うことで、我々の映像の世紀ができればと思う。乾杯！

「復帰世代」の知的熱情

垣花 義盛 (24期)



かえながら、学舎を後にした。同時代の仲間達。

巷では、「復帰世代」を奇人・変人・自由人ばかりと揶揄したそう。

また、「変わった子達だけ、仲間思いで、団結心がある」と、誉めてくれたと言う。

過日、八月二十六日、NHK（総合）で、「かんさい熱視線沖縄関西に生きるエイサー」のタイトルで、放映がありました。

大阪市大正区で、五十年近く「エイサー祭り」が続いており、その由来と、更

には、子ども達へと伝えられている様子がとりあげられました。

実は、復帰前後に本土各地へ渡った沖縄青年達は、現代からは想像できない程の、多くの悲惨な事件や自殺案件を引き起こしていたのです。

連日のようにマスコミに取り上げられ、いたたまれなくなった青年達は、一緒に、青年会や郷友会などを結成し、さまざまな取り組みが始められました。

「沖縄青年の誇りを取り戻そう」を合い言葉にスタートした、有志の青年達の祭りの一つが、今では、万余の観客を集める市民祭りとして、定着したのです。

「沖縄って何県にある

の？」「宮古島？日本にあるの？」と、無理解と偏見・差別のまなざしは、本土各地を広くおおっていました。

子ども達の指導員として関わり、エイサーの練習活動の最中、「世界中の太鼓が、丸や楕円形をしているのは何故？」「バチは何であるの？」「サンシンはどうして三本の弦なの？」「へビ皮の意味は何？」「人はなぜ供養するの？」「人は死んだらどうなるの？」等々素朴な問いが寄せられます。

七転八倒の苦業は、楽しくもあり、恐ろしくもあり、さまざまな解や謎にたどり着きました。足元にはとてつもないタカラがあります。

さてさて、「ボウチラ（暴

れん坊）」と呼ばれた私達、「復帰世代」には旺盛であつた知的熱情は、宮古高校の伝統として、今も健在でしょうか。

愛すべき後輩達には、好奇心と感性を両の翼にして、大きく羽ばたいていただきたい。

順風に乗るのも良し、逆風にはたき落とされるのもまた良し、人生は面白いですよ。

最後に、ご苦勞を引き受け、同窓の灯りをともし続ける皆様へ深く感謝申し上げます。

思いがけないお声掛けに、とまどいましたが、「エイッ！ヤッ！」と一気呵成に文をつづりました。

ご笑読下さったならば、幸いです。

一九七二年、沖縄の「祖国復帰」は、大きな世替りでした。

世相は、「復帰」「反復帰」に揺れ、政治・経済・社会の激動の波をもろにかぶる高校時代となりました。

加えて、サルトルの実存主義だ、マルクス経済学だと、哲学・思想に文芸の大波・小波。

心の奥底では、色恋や進路などの思春期の悩みをか

卒業50年を祝う会に感謝



仲座 政子 (24期)

やがて卒業まじかになり、着物の制作で提出間近になりますと、クラスメートと共に狭い部屋で徹夜をしながら仕上げて提出期日に間に合わせた達成感も楽しい思い出の一つです。

宮古高校を卒業しまして、早いもので50年を迎えていますことに驚き、月日の流れの早さを感じ、青春時代をなつかしく思い出す今日この頃です。そして、50数年前、15の春に親元を離れまして、楽しい高校生活を夢見て入学を心待ちにしていました。いよいよ高校生活がスタートし、クラスは各地の中学校からの集いで言葉のイントネーションがいろいろで最初はなじむのに多少時間もかかりました。入学してまもなくするとクラブ活動の選択です。同じ中学の卒業生と一緒にスポーツ系に入部することにしました。クラブ活動が非常にハードで夏休みが待ち遠しかったことを鮮明に記憶しています。

卒業後はミニ沖縄南秀同窓会として家政科のクラス会を年に一、二回ですが、情報の円滑な交流の場として楽しい時間を過ごしていました。一つの学び舎で青春を共有してきた者は、どのような困難な時代でもそれを乗り越え結びあうことができると思います。

すべての卒業生が、自分の可能性を最大限に発揮し、自らの手でより良い社会や未来を創っていく事を目指すことも大切だと思います。さらに、在学生も含めまして、先輩後輩の絆をより確かなものとして南秀同窓会の活動として発展していきますことは真に喜ばしい限りであります。

りであります。

沖縄が日本復帰して半世紀の記念すべき節目に「第35回卒業50年を祝う会」を開催されますことは、その歴史を紐解き、南秀同窓会

2倍だよ！ 私の友達

浦崎 直子(旧姓:上江洲) (24期)



毎年、南秀同窓会とタイアップして宮古高校卒業後50年の節目の期は、同窓会を企画することになっていくらしい。今年は、そう！卒業してから50年の24期生なのです。その24期の初めての高校の同窓会に参加する私は、「ちむどんどん」しています。24期の皆さんはどうしているのだろうか？あの、日本復帰50年前にタイムスリップです。琉球政府立最後の宮古高等学校24期、1972年3月1日に卒業した。4月までは琉球

の絆をより強固なものとし、次世代の発展への礎なるものであるまし。また先輩方が築き上げた道程を後輩のための指標とすることは誠に意義深く、心から敬意を

表する次第であります。「第35回卒業50年を祝う会」で南秀同窓会の皆様と再会できますことを大変うれしく、心から楽しみにしています。

政府、5月からは日本政府下の沖縄県民です。そして、私は3月1日には大学の受験のため卒業式にも参列しておらず、分散会いっておらず、それ以来あつていない同級生もいる。でも、私は同級生のみなさんとは年齢が1つ年上！入学の時は心配したが、みんな分け隔てなく「なお」と呼んで付き合ってくれた。沢山の友人に囲まれ楽しい高校生活を送ることができた。部活でも、クラスでも、学年でも…。だから今回、同窓会に参加できるのは楽しみでもあり、どきどきでもある。中学卒業の1年間は、多少なりとも辛い時期ではあつ

たが、今は子供にも自信をもって、私は中学・高校の同級生がいて、2倍の友人がいるし、思い出が2倍！だと。そして、そう思えたのはやはり、24期の皆さんが、なんの隔たりも感じさせず、付き合ってくれたからだと思信を持って話している。感謝している。だから、しばらくはどの時代の友人だったか忘れることさえある。しかし、大学卒業後、那覇で仕事し、生活の基盤を浦添で、家庭・育児に精一杯で、疎遠になり、連絡も取れず、宮古での情報もあまりなく、本当に会えてない。元気かな？私の事、分かるかな？覚えてくれているかな？でも、還暦も過ぎ70の私はいつもの顔で「なおです」と会場に入り50年前にタイムスリップしてみたい。宜しくお願いします24期の3年9組の皆さん！！

50年前(高校時代)を 振り返る



本村 邦彦 (24期)

伸び母親の思惑通りに卒業まで着ることができた。

卒業50年を祝う会が私たち24期生に巡ってきた。宮古高校を卒業してもう50年。来年は古稀を迎える年齢になることを思えば、隔世の感をおぼえる。また卒業50年と沖縄県が日本に復帰して50年と重なったことにも何かの縁を感じる。

さて、私たちが宮古高校に入学したのは1969年(昭和44年)の4月、体育館の新築工事が始まっている中での入学式でした。入学当時の身長は163cmしかなかったが3年間着れるようにと母親に買ってもらった大きなサイズの学生服を着ての入学であった。(卒業時には身長が176cmまで

入学当時の想い出は幾つあるが、まず西辺出身ということでバス通学が楽しい想い出として残る。通称学生バスは2便あったが池間と狩俣を始発のため西辺まではぎゅうぎゅう詰め状態で乗れないときもあった。また当時の八千代バスは「田舎のバスはおんぼろバスだ」という歌を地で行くようなバスで途中でエンストして皆で押してエンジンをつけたりした想い出がある。

学校生活が始まるとどの部活に入ろうかと迷っていたとき部活紹介でそれまで憧れていた剣道部に興味を持ち、早速入部の手続きをとって入部する事となった。しかし思った以上に素振りや正座の苦しさに1週間も持たず挫折。その後は初めて見るハンドボールやテニスも考えたが、家の農業の手伝いや家畜の世話等もありしばらくは帰宅部となる。

転機となったのは11月に行われた校内ロードレース大会であった。学校のグラウンドを起点にシープラ崎から川満を折り返す10kmで全校9位に入り、自分でもビックリしている中、駅伝部の先輩方から声をかけられるようになった。練習時間にもある程度の余裕があり3学期から入部して練習を始める。当時の2、3年生は競技力が高く宮古大会や県大会でも上位で活躍する選手がいたので、厳しい中でも楽しい部活が送れた。2年生になると高校時代最初で最後の県大会出場となる沖縄県高等学校駅伝競走大会に、4区8kmの区間を走ることができた(宮古高校は総合8位)。この時の他校の選手のレベルの高さを身をもって知ることができ将来の進路を左右する大きな要因にもなった。

その他、高校入学でとても感激したことは、行ったことのない多良間島を始め離島の伊良部島や城辺、上野、下地といった宮古二円からのアゲが一堂に会したことでした。当時の修学旅行は小学校が砂川小学校で一泊、中学校は来間で一泊して伊良部、池間を巡る日程からして宮古島はとて広いというイメージがあり、全宮古のアゲたちと一緒に新鮮な気持ちと少々不安の中でも大きな期待がありました。入学すると同じ池間民族の佐良浜出身の友達とは特に気が合い、母親が持たしてくれた弁当は佐良浜出身の友達が早弁し昼食は弁当を買ってその友達の間借り先で食べたことも懐かしい思い出として残る。

結びに、宮古高校の後輩に期待することは、月並みの言葉ですが「文武両道」の精神で頑張ってくださいと思います。高校時代は自分探しの時代とも言います。自分の目指す進路に向かって有意義な高校生活を送ってください。「行くぞ甲子園」「宮古から都大路へ」。今宮古高

校の卒業生を中心に有志が集まって、甲子園大会や全国高校駅伝大会出場に向けて応援体制を整えています。近い将来『夢・実現』が現実のことになることを期待します。



昭和40年当時の学校風景

第35回 卒業50年を祝う会

2022年11月12日(土)、ホテルアトールエメラルド宮古島



沖縄南秀同窓会
藤村悠子副会長



南秀同窓会
安谷屋政秀会長



恩師



1・2組 (家政科)



3 (商業科)・4組 (普通科)



5・6組



4
5
10
組
普
通
科

7・8組



9・10組



定時16期





定時制 16 期世話役
宮國英子さん



24 期世話役
友利恵徳さん



全員でクイチャーを
踊り盛り上がった



第35回卒業50年を祝う会収支決算書

(単位:円)

歳入		歳出	
金額	備考	金額	備考
1,052,000	24期16期	1,033,456	祝う会経費
30,000	23期	200,000	宮高校寄付金
5,000	11期	146,800	消耗品費
90,000	25期	31,744	南秀同窓会寄付金
30,000	26期		
25,000	27期		
30,000	29期		
30,000	34期		
120,000	バレー部・各期・理事他		
1,412,000		1,412,000	

24期・16期 計122人

他 計72人

令和4年度 南秀同窓会 役員

役職	氏名	備考
顧問	仲地 清成	
	與儀 千寿子	
	金城 透	学校長
会長 (理事)	安谷屋 政秀	
副会長 (理事)	下地 信輔	
	平良 智枝子 (業務執行理事)	
	垣花 誠 (非常勤)	教頭
(理事)	池間 弘明	
	宮国 敏弘	
	下地 悦子	
監事	石原 智男	
	根間 康雄	
事務局	池間 くみえ	庶務会計
渉外	山原 茂人	教諭

令和4年度 関東南秀同窓会 役員

役職	氏名	期別
会長	川上 正人	23
副会長	砂川 清栄	16
	下地 隆	21
	平良 忠信	28
事務局長	上原 英夫	18
事務局次長	与那覇 一佳	20
幹事	仲間 昭治	7
	上地 弘二	8
	国仲 登	10
	砂川 祐一	12
	砂川 弘子	16
	砂川 敏郎	17
	関根 美江子	18
	宮国 泰斗	19
	仲本 光正	28
	山中 朝司	29
	国仲 晃行	12
	吉田 静子	18
会計	平良 明子	14
監査	仲宗根 晃	18
	赤崎 多喜夫	6
顧問	嘉手川 清次	7
	砂川 真栄	9
	友利 三雄	9
	宮里 邦雄	10
	砂川 隆久	10
	大山 芳男	12
	国仲 晃行	12

令和4年度 沖縄南秀同窓会 役員

事務所 〒900-0014 那覇市松尾1-19-1

合人社沖縄県庁前アネクス1003

TEL・FAX 098-868-6225

役職	氏名	期別
会長	豊見山 恵美子	21
副会長	藤村 悠子	23
	伊志嶺 恒洋	25
事務局長	与那覇 孝政	25
幹事	波平 剛	13
	下地 正	21
	盛島 明浩	22
	野中 貴志恵	22
	池間 聡	25
	浦崎 直子	24
	宮城 伸子	26
	狩俣 好則	27
	具志堅 忠昭	28
	西里 喜明	29
監査人	田場 君子	21
	國仲 勝則	27
顧問	仲宗根 義夫	14